

地域イノベーション戦略支援プログラム
あおもりグリーン&ライフ・シナジーイノベーション創出エリア
(研究機能・産業集積高度化地域) 終了評価結果

(1) **地域イノベーション戦略支援プログラムの概要**

- **総合調整機関**：公益財団法人 21 あおもり産業総合支援センター
- **プロジェクトディレクター**：阿部 馨
- **地域イノベーション戦略支援プログラムのテーマ**：
プロテオグリカン関連バイオマテリアルをコアとした津軽圏ヘルス&ビューティー産業クラスターの形成・拡大
- **地域イノベーション戦略支援プログラムの概要**：
国立大学法人弘前大学に蓄積された糖鎖工学の豊富な知的・人的財産並びにプロテオグリカン（以下PG）の大量精製技術を活用し、PGの持つ機能性効果の検証とその機能性を活用した高機能性食品や化粧品、医薬品の開発に向けた企業との共同研究を加速させること、及び研究開発の成果を的確に商品開発と新規ビジネス創出につなげる人材育成により、健康（ヘルス）&美容（ビューティー）関連産業クラスターの形成と拡大に取り組む。
- **補助事業者及び支援メニュー**
 - ・ **地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積**
国立大学法人弘前大学、地方独立行政法人青森県産業技術センター
 - ・ **地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施**
公益財団法人 21 あおもり産業総合支援センター
 - ・ **大学等の知のネットワークの構築**
公益財団法人 21 あおもり産業総合支援センター

(2) **総評（総合評価：A）**

本地域は、産学連携がうまくコーディネートされており、事業化につながる活動が積極的に推進されている。特に中間評価の指摘を踏まえて、事業の進展に合わせて重要な研究テーマに資金を集中するとともに海外展開に向けた広報などの経費に充当することで、本プログラムの目標を概ね達成する目途を立てた。人材育成や多くの地域が苦手とする広報にも戦略的に取り組んでいることは評価できる。

一方で、PGのブランディングにも戦略的に取り組んでいるが、一般の消費者に向けてのマーケティングに関しては検討の余地があると思われる。また、特許による収益が計上されていない点も自立化の上で課題があるものと思われる。

今後は、地域金融機関と連携し、資金確保の取組を進めるとともに、獲得した資金や本事業の成果により民間事業者が得る収入を、持続的なイノベーションを確立させるた

めに活用することが重要であると考える。

【地域イノベーション戦略支援プログラムの進捗】

・目標の達成状況

参加企業数やベンチャー創出では未達となる見込みであるが、ほぼすべての目標が達成されつつあり、中でも事業化数などは高く評価できる。課題として指摘していた海外対応に関しても海外の食品エキスポで権威ある賞を受賞するなどブランド化を中心に対策が準備されている。

・事業化

地域の企業と大学、研究機関が共同研究した技術で原料製造を担当し、のべ 156 社の参加企業が 300 を超える試作品と 150 を超える新商品を開発するとともに、国内外にネットワークを有する企業が参画していることは評価できる。

また、海外展開も視野に入れた商標登録などブランディング戦略も進められている。

【事業推進体制】

・プロジェクトディレクター及び総合調整機関

プロジェクトディレクターは優れたリーダーシップを発揮し、大手健康食品会社や化粧品会社を巻き込み、将来の創薬ビジネスに繋がる調査、通販体制の確立及び海外におけるプロモーション等、事業推進に深くコミットして実効性のある優れたマネジメントを行った。また、総合調整機関に設置した産業クラスター戦略チームが十分な支援体制を整えたものと思われる。

・補助事業者の構成

それぞれが素材研究、商品化実証など役割分担が明確となっており、その連携がうまく機能している。しかし、大学等における知的財産に関する戦略については検討の余地があると考える。

・予算配分や研究テーマの検討

各専門分野の著名な有識者で構成された外部評価委員会が、的確な指摘と対応策の提案を行うことで、戦略的な軌道修正を実施する P D C A が上手くまわっている。地域は厳しい外部評価に対応する中で、しっかりとしたプログラムへと育成させた。海外ブランディングも視野に入れた大きな進展もみられた。

【イノベーションエコシステムの形成・高度化】

・環境・意識の変化

大手企業の巻き込みによる認知度向上への協働、青森の自然・食文化を絡めたプロモーション、県内各地域での講習会の実施、首都圏出店支援、モジュール化支援及び機能性表示食品としての届出受理等、様々なマーケティングが適切に行われ、海外に関しても台湾と米国で展示会、記者発表、受賞等を通じた発信が効果的になされた。大学では、アントレプレナーセミナーの開催等、大学発イノベーション創出に向けた実践的な人材育成を活発化している。

・マーケティング・成果発信の状況

青森のPGはサプリメントや技術行政の関係者に広く知られている。国内外の市場調査が実施されおり、動画配信も含めて情報発信が積極的に行われた。また海外展開においては、海外の展示会で賞を受賞するなど、世界的なブランド化へと大きな進展があったものと思われる。

・波及効果・資金確保

多くのメディアでも取り上げられおり、海外を含めた波及効果が表れている。通販大手の販売チャネルを活用する通販プラットフォームの構築も進んでいる。中核となる民間企業もあり、積極的な資金獲得も実施されており、各種の教育プログラムも含めて自立化へ向けた取り組みが進められている。また、活動資金についても、独自の補助金制度や民間事業者による共同研究開発を通じて確保しており、事業化した企業の設備投資、雇用もあるが、民間事業者から獲得した資金が少ないことが課題である。

【各支援メニュー】

・地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積

六つの研究テーマが明確なロードマップに沿って順調に進捗し、何れも目標は達成する見込みである。特に、肥満抑制効果に関する特許申請や臨床応用については優れた成果が上がっている。

・地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施

次世代イノベーターの育成、エリア人材の育成、イノベーション人材の育成及びコーディネータ育成の各機能・役割別で青森エリア人材育成プログラムが実施され、当初計画の目標が達成されている。地域の課題を整理した上で、他地域の取り組みも参考としながら、本事業との連携も行われており高く評価できる。

・大学等の知のネットワークの構築

推進委員会、報告会、評価委員会、各種メディア、企業訪問、意見聴取、イベント企画、ものづくり講習会、データベース構築など、知のネットワークの構築と活性化が着実に実施されている。今後は、域内よりも域外とのネットワーク作りにより力を入れるべきと考える。